

令和6年度 第4回奄美市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和6年12月26日(木)10:00～12:00
開催場所	奄美市役所 5階大会議室
出席者 (8名)	平田委員長, 加世田副委員長, 正本委員, 吉村委員, 下田委員, 稲田委員 三浦委員, 西谷委員
事務局	福祉事務所長, こども未来課, 福祉政策課, 健康増進課, 重点政策推進監, 学校教育課 住用総合支所市民福祉課, 笠利総合支所いきいき健康課, 笠利総合支所地域教育課, 計画策定業者
〈議題〉	1 開会 2 協議 第3期子ども・子育て支援事業計画素案について 3 閉会
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
協議 第3期子ども・子育て支援事業計画素案について (事務局) 資料1, 資料2に沿って、素案 第1章～第3章の説明 質疑は以下のとおり (委員) 子は島の宝はみんな認識があり、子育てしやすい。その中で課題として、転勤やIターンの方は頼れる家族がいない、同世代との繋がりが少なく、孤立しがちである。ここに対応する部分、基本的な考えに含まれる部分はなかったか。 (事務局) 転勤・Iターン者をクローズアップした表現はしていないが、地域のなかで孤立しがちな方につながりができるように、つながりを意識したところである。 (委員) 新川ふれあい館ができ、先日もふれあい祭りでいろんな世代が交流し、地域の顔が見える取り組みが行われており、Iターン者も参加できる。子育て世代はネットやSNSで情報収集している。港町児童センターもインスタを始めて、イベントの様子を発信している。保育所もこのような情報発信をしていく必要がある。外から来る人へ子育てのしやすさのアピールを目に見えるように取り組んでほしい。 (委員長) 転勤者には逆に地域がキーワードになる。第4章58ページに、子育て支援の情報提供、地域との連携、相談体制の充実、転勤者が子育て相談できずとあるので、官民連携の子育て応援情報発信、民生児童委員の協力にて地域でのそういった方をフォローしていく。重点政策推進監事業の民間が実施する親子の交流、新川ふれあい館、笠利・住用で、親子が触れ合う場所を作り始めている。 (委員) ことばが優しくて分かりやすい。以前から繋がりはあったが、より強く打ち出している。方言が入っているとよりあたたかみがでると思う。	

(委員)

アンケート、奄美市未来計画、個別計画との整合性がとれて素晴らしい。転勤者の地域との繋がりが希薄化していること、情報提供や地域連携、相談体制の充実としっかり課題に対応する施策になっている。また、基本目標で第2期ではなかった「親子」との記載があり、親のケアが盛り込まれている。あとは、施策の具体的な内容になるのでしっかりと理解していければいいと思う。

(委員)

基本理念の「つながる」。私もつながる場を1月にオープンする。
昔より情報が多く、正しい情報と間違っている情報を分けないといけないと思う。
頑張るからこそ行政にも頼りづらく、堅苦しくて相談できずにいる人がいる。地域というよりは、誰かと繋がる場所を提供したい。

事務局 基本目標 1説明

質疑は以下のとおり

(委員)

先日奄看で最後の円卓会議をしたが、学生が17名見学した。学年や就職前かで受け止め方が違い、円卓会議のことを知らなかったが、自分達の将来のことで嬉しく、ありがたがっていた。会場にしてもらい感謝している。中には最初から見たかったという意見もあり、また後々現場で使いこなしていく必要があると話した。県外の3年生が島での就職希望が増えている。

(委員)

53、54ページに認定こども園があるが、笠利は施設が8年度、認定こども園は7年度4月から、住用も7年度4月からでよいか。

(事務局)

住用地区は8年度4月から供用開始。

笠利地区は施設としては、8年度だが、7年4月で赤木名認定こども園が決定しているので修正したい。

(委員)

充実してほしい子育て支援で保育の充実が一番だが、新たな「こども誰でも通園制度」においても対応できる人材確保が課題。

重点政策推進監による人材確保の施策はありがたい。保育施設魅力向上のため保育まつりを8年ぶりに開催、1,000人以上参加があった。職員から楽しく、他園との連携ができたという意見があった。県保連もイベント開催しており、魅力発信をしていきたい。「低賃金」などの理由で保護者が保育士になりたい夢にストップをかけている。最近、ボランティアで保育園にきている高校生も、保育士に育ってほしい。

(委員)

子育てが活性化しているが、私立の幼稚園は盛り上がりにかけるかと思う。保育園の祭りなどのチラシは配布が遅く、期限が切れていた。市一丸となるとときに私立幼稚園は置き去りになることがあるので、お互いに声をかけていけたらと感じた。

(委員長)

早めの情報発信を心得てほしいが、円卓会議の構成や取り組みを説明してほしい。

(事務局)

吉村先生を座長に、認可保育所の代表者、地域型保育事業所、小規模事業所の代表者、障害児通所支援事業所の方、働き方の専門家として社会保険労務士、作業療法士、心理士で構成している。
保育施設魅力向上、保育所ごとの必要な人材やICT化など課題も異なるので、各保育所で議論してもらう。人材確保は行政と連携して魅力発信をしていく必要がある。12月補正にて保育士フェアの開催も検討している。目標は3年間だが、取り組みは年明けから始めていく。

(事務局)

説明の補足。保育施設のサービスについては多くの項目で満足度が高い結果である。

(委員)

保育まつりについては、幼稚園に通っている他の転勤族の方も知らない方が多かった。幼稚園利用者にも、同じ奄美市の子どもとして情報を届けてほしい。

(委員)

保育連合会が主催だったが、チラシの作成が遅れてしまったので申し訳ない。保育園には配布できたが、それ以外は市役所に預ける形になった。

事務局 基本目標 2～4説明

質疑は以下のとおり

(委員)

117ページに里親があるが、白百合の寮とは別で考えてよいか。

(事務局)

これまで児童養護施設に短期入所をお願いしていたが、令和5年度から里親も短期入所先として利用できるようになった。

(委員)

里親制度の理解が市民に届いてないと感じる。説明会や周知をして高めてほしい。

(事務局)

里親は県への登録となり、年1回説明会がある。去年は2世帯だが今年度は8世帯参加があった。県や児相とも連携して検討したい。

(事務局)

里親について、「第2章子育てを取り巻く環境」や「第4章 基本目標4 支援を必要とする子どもや家庭の支援」の部分で、書けることがあれば、追記して次回お示ししたい。

事務局 第5章 第6章説明

(質疑なし)

(委員長)

皆さんの意見を反映させたものを次回お示しさせていただきたい。また、軽微な修正については事務局に一任する形でよろしいか。

(意見なし)

(委員長)

次回会議終了後にパブリックコメントに入るので、計画を固める会となる。よろしくお示ししたい。

事務局より今後の会議スケジュールを確認

会議終了